

「自由」が不安な若者たちと どう向き合うか

◆ 実施例と試案

矢内 浩文

メディア通信工学科・講師

茨城大学工学部 第3回 FD研究会

2006年3月15日(水)

1

話の流れ

- 今日のFD研究会のテーマ「教員側からみた授業のあり方」の解釈

- わたしの取り組み……まずは2つの例

- 大学について、授業について
 - わたしの考え
 - 主題について
 - 取り組みの実施例
 - 試案

- わたしのバイブルの紹介

今日のテーマについて

■ テーマ「教員側からみた授業のあり方」

→ わたしの解釈は...

- 学生に媚びない授業のあり方, つまり,
- たとえ学生の評価が低くても, 後に「よかった」と思ってもらえる授業のあり方

■ 学生(*)の特徴

(*) 学生に限らず受講する立場に広くあてはまる!?

- できるだけ快適に過ごしたい
ex. 授業参加に際してのパーソナルスペース
- できるだけ楽をしたい
- 短期的観点で見ている
ex. 自己研鑽につながるか, ではなくて, 就職に役立つか, あるいは, 単位が取れるか

わたしの取り組み……まずは2つの例

「携帯電話露出禁止」と「黙々アワー」

■ 授業中の携帯電話露出禁止

- 着信音はもちろん、姿が見えるのも禁止.
- 違反した場合には退場.

効果：外の世界から遮断

- 授業以外をあきらめる
- 授業に集中できる

■ 研究室の「黙々アワー」 Digitally-divided hour

- ある会社の取り組みにヒントを得て1999年から実施.
- 毎週2時間 (途中10分間の休憩).
- 開始時に目標を, 終了時に達成内容を書く.
- 禁止→会話,移動,携帯電話とコンピューターの利用.

効果：携帯電話露出禁止と同様

5

大学や授業について — わたしの考え

■ 大学教育の最重要課題：主体性を育むこと

■ 主体は学生自身

- どのような手続きを踏み, どう学ぶかは学生が自ら考えること.
- 教職員の役割は, 主体的な学生を「手助け」すること.
- 卒業は資格である. その資格を取れるかどうかは本人次第.

■ 注意していること

- 「人間」を理解していないことを「今どきの学生」が理解できないせいにならない.
- 大学教師はオタク(=変人!)と心得る.
 - ほとんどの学生は常識人. 研究を職業にするつもりはない.
 - オタクと常識人は相容れない!?

6

わたしの大方針

- 緊張と弛緩を織り交ぜる。
 - 優しい指導 & 厳しい評価
 - 誰もが回答すべき基本的課題 & ほとんどが解決できない発展的課題(あるいはクイズ).

- 平均層をターゲットに、しかし上位層を退屈させない。
 - 下位層は、はい上がれ！ 懇切丁寧な指導はしない。

主題について

- 自由 ≡ 自己責任
- 自己責任の取り方を知らない
 - 自滅へ
 - …… 自滅させないためには道を示す必要
- 懇切丁寧な教育しか知らない(自由に戸惑う)
 - 「一を聞いて十を知る」ことが困難
 - …… 十を説いて五くらいを知ってもらえれば御の字？
- 自由の例
 - 教科書購入の自由
 - 参考書選択の自由
 - 授業参加の自由

教育効果を高めることを意図した 取り組みの実施例

9

板書のための記号

■ 目的

- 基本事項と発展的内容(or 余談)を明確に区別する

■ ヒントにしたのは...

- ブルバキ数学原論の「危険な曲がり角」
※ 右図はTeXのテキストで D. Knuth が
使用しているもの



■ 「わき道」の始まりと終わりを表わす記号

.....
.....である.



余談だが.....
.....

.....である.



定理3は.....

実施例(1/3)

- 過去の間試験や期末試験の問題を授業の初回に配布，到達目標を示す。
 - 本来は学生のコミュニケーションネットワークを期待したいところだが...
- 中間試験と期末試験へはA4判用紙の手書きメモのみ持ち込み可能。
 - 試験前に手を動かすこと，要点をまとめる作業で勉強を促すことを期待。(わたしが学生時代に受けた方法)
- 授業の実施内容と計画をWeb頁に掲載する，もちろん配付資料と課題も。
 - 授業参加の自由による不利を軽減するため。
- レポートや試験の採点結果をWeb頁で示し，評価の状況を確認できるようにする。
 - これにより，学生は同級生の中の自分の位置を把握できる，ひいては目標ができる(と期待している)。

11

実施例(2/3)

- 自主的な発言の回数を記録し，最終成績にボーナスとして加算(5%以内)。
 - シラバスに明記。
 - 指名されての発言は無効。
 - 導入以前よりも発言が活発になった。
- 出張のため授業ができない回を休講にせずに「自習」にする。
- 同一のレポートがあった場合には該当するすべてのレポートを零点とする。
 - 写させた方も零点。
 - 丸写しがほぼ撲滅された。

12

実施例(3/3) — 潜在意識に訴えかける!?

- グーチョキパーで挙手させる。全体への問いかけに対して。
 - 身体を使わせることで、授業へのかかわりを潜在意識に訴えかける。
- 大学に愛着を持つように潜在意識に訴える!?
 - 受講生専用Webページのユーザー名とパスワードを大学に愛着を感じるようなものになっている。

試案 — 自由を更に制限する方式の案

- “宿題”を出さない。
 - 宿題：次の授業までに自由に調べて好きなだけ時間をかけられる課題。
 - レポート課題を家に持ち帰らせずに、学内で取り組ませ、達成するまで帰れない!?
- チョークボードのみで授業を受けさせる。
 - 授業の最後に時間を設けてノートさせる。
 - ぼんやりしていたら何も分からなくなってしまう授業。
 - この方式の比率が大きすぎると負担が大きすぎる?

わたしのバイブル

- 「教師と学生」 IDE教育資料 第44集, 1971年初版
 - 日本語版のルーツは1952年
 - オリジナルはMITの"You and Your Students"
- 次頁に章立てと抜粋(ほんの一部)を示す.

MIT教師必携 「教師と学生」より

- 1章 教育のチームワーク
 - 教育の過程は、学生と教師たちの一種のチームワークである。教師は、常に学び続けている学生である。
- 2章 学習過程
 - 理解／想起／創造的思考
- 3章 目標
 - 少ない教材を深く教える教師が成功をおさめる場合が多い。
- 4章 授業のやり方
 - 実物／模型／平面的複製／黒板／身ぶり／話し方／宿題
- 5章 試験
 - 学生の状態を無視しないこと……学生がぐあいの悪いときには事情をできる限り考慮に入れて、最後の採点をするのである。
 - 試験で満点を取る学生は、実はだまされているのである。……それ以上に、どれくらいまでできるかを示すことができないからである。
- 6章 採点
 - 採点は必要悪であって、それ自身目標とみるべきではない。
- 7章 カウンセリング